

■取組概要

宮崎市では、子ども食堂への食材支援と広報の一環として、「食べきれない」、「使いきれない」という理由から家庭や職場などで余っている食べ物を持ち寄り、必要としている方へ寄付する活動「フードドライブ」の取組を進めている。市が委託する「支え合いの地域づくりネットワーク」が中心となり、子ども食堂の開設相談や運営支援などにも取り組んでいる。

■取組の成果

年に一度、ネットワークが中心となり、市役所内でフードドライブを開催し、市民や事業所などから持ち寄られた食品を集めることで、子ども食堂の運営者などに配布して活用してもらうという仕組みができ、子ども食堂への支援に加え、食品ロスの削減にも繋がっている。また、宮崎市中心部にあるアーケードの商店街「一番街」で毎月第4土曜日に実施されているイベント「街市」でも、フードドライブのコーナーを設け、継続的に取り組んでいるほか、地元企業が職場でフードドライブに取り組むなど、活動が広がっている。取組が始まって3年あまりだが、市民のフードドライブへの関心が徐々に広がって来ている。市場の青果店が子ども食堂に市場の残りなどを直接配達してくれたり、企業が自社の商品を寄付してくれるなど、子ども食堂をきっかけとした支援の輪が市民や企業に少しずつ浸透してきている。



所在地：NPO法人みやざき子ども文化センター内
(宮崎県宮崎市)

みやざき子ども文化センター×みやざきママパパ(happy)の共同
(担当部署：宮崎市子ども未来部子育て支援課)

宮崎市では、平成30年度から「子ども食堂ネットワーク応援事業」を開始し、子どもからお年寄りまで、地域の誰もが「食」を通して集まることができる新しいコミュニティの形であり、地域の居場所となる「子ども食堂」を市内に広げる取組を進めている。令和3年12月時点で、30か所の「子ども食堂」が活動しており、「支え合いの地域づくりネットワーク」は、その事務局を担い、子ども食堂の開設相談、子ども食堂への食材支援のマッチング、子どもの支援を行う専門家や各子ども食堂間のネットワークの構築、勉強会の開催などを行っている。

【取組】 令和3年の取組

7月5日から9日までの5日間、宮崎市役所内にフードドライブコーナーを設け、市民などから提供された食品を子ども食堂などに活用してもらった。食品は未開封で、賞味期限が1か月以上余裕のあるもの。具体的にはお米、乾麺、インスタント食品、レトルト食品、食用油、調味料、缶詰、お菓子など。期間中、115名から計1158品が持ち込まれ、その総量は236キログラムにもなった。「7月に実施したため、お中元でいただいたそうめんを寄付してくれた方がいたが、子ども食堂に大変喜ばれた。食べきれない食品を、無駄にすることなく、子どものために活用できる点に提供してくれる方々の共感が得られたものとする。現在、市役所での開催は、年1回だけだが、他の季節にもやってほしいとのご意見や、自治会単位でもやれるといいという声もある。」(宮崎市子育て支援課池田和浩主任主事)

【取組事例】 テゲバジャーロ宮崎(サッカーJ3リーグ)

日本プロサッカーリーグに加盟する「テゲバジャーロ宮崎」(2021年からJ3に参入した宮崎初のJリーグクラブ)と子ども食堂がコラボして誕生した「愛あるごはんを届けよう!プロジェクト」(令和3年9月開始)では、同クラブが公式戦で勝利した場合、翌水曜日に宮崎市や新富町などの子ども食堂に、同クラブのスポンサー企業から食材や衛生用品が届けられる。この取組が始まってから同チームは7試合中6勝0敗1分け(10月17日時点)と無敗が続いた。

■今後の取組

フードドライブをきっかけに、市内全域に子ども食堂の取組を広げ、支援の輪が更に広がっていくよう、継続して実施する。また、より多くの市民や団体が参画できるよう、開催頻度や場所についても工夫していく。

